



SENSHOJI
YUKARI NEWSLETTER
1994-2024

ゆかり通信
VOL. 314
令和 6年 3月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺
TEL: 0123-23-2442 FAX: 0123-24-9883
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2024年千正寺カレンダー 3月の言葉



先祖より、
子の帰省待つ親心

今月の言葉は、家のご法事でご先祖様より、普段地方で生活している子ども達の帰省を楽しみに待っている親の気持ちを歌った句なのでしょう。

私の妻は四姉妹でそれぞれ結婚して、実家は両親二人の生活を送っています。ここ五年で祖父や祖母が亡くなり一周忌三回忌と法事が続き、妻の実家の両親は大変そうでしたが、この句のように子ども達に会えることを楽しみにしているようでした。

以前、布教使様に似たような句を教えてくださいました。

みな

「祭りには、皆でと言えど 気は娘」

という句です。地方に娘を嫁がせた親が何かの用事で、むこうの両親から電話があり。その電話で「もうすぐ私の村でお祭りがありますから、どうぞ皆さんで遊びに来て下さい。」と電話を切った。「皆さんで来てほしい」とお誘いしていますが、親の気持ちは何より娘に会いたいというそんな親心を歌った句です。「みんなでと言っている気持ちは娘ただ一人」。

阿弥陀様のお心もその通りだと親鸞聖人は教えて下さっています。浄土真宗は阿弥陀様の救いの教えです。お経には阿弥陀様の救いは「一切衆生」に至り届くと説かれています。「一切衆生」とは「生きとし生けるもの全て」という意味です。ですから阿弥陀様の救いは生きとし生けるもの全てが目当てです。しかし親鸞聖人は「弥陀五劫思惟の願をよくよく案ずれば 親鸞一人がためなりけり。」と仰っています。意識すると「阿弥陀様が、想像も出来ないほどの長い時間をかけてご思案くださった「一切衆生を救いたい」というご本願をよくよく考えてみると、ただひとえに私親鸞一人を救わんがための願いであったのだ。」という阿弥陀様の救いに出逢った親鸞聖人の深い思いが語られています。阿弥陀様の救いは、全ての生きとし生けるものが目当てであります。それはまさしく私一人を救うためであった。その「私一人」とは親鸞聖人だけではなく、私たち一人一人であると味わうことです。

(文：鹿谷賢純法務員)